中国遠征の記

パス キャッチ ミスがない中国

—多いバスケットボール転向者—

高嶋　洌

周恩来首相（中央）を囲んで…………訪中ハンドボールチーム

すばらしい北京の体育施設………

4月15日から5月8日まで、日本のハンドボール選手団は中国を訪問した。いろいろなスポーツ団体が中国と交流を希望しているわけであるが、なかなか簡単に交渉が成立するものではない。それは政治的な事がらや、IF（インターナショナル・フェデレーション。それぞれのスポーツの国際連盟）の規約などによって制限をうけるからである。

ハンドボールの場合も、4―5年前から交渉にはいり、やっと本年度の当初に他の団体にさきがけて実現したものである。試合の結果は9戦1勝8敗で、まことに不本意な成績であった。しかし考え方によっては、こんなに近いところにこんな強い相手がいることは、むしろありがたいことである。勝敗を伴なうスポーツにおいては、ときに勝つこともあり、ときに負けることもある。そこで最も大切なことは、勝ったときには次に負けないように努力すること。負けたときには次の機会には勝つように努力することである。明年度には中国のチームが来日することが決定し、明後年は日本の男女チームが遠征する。この機会に約3週間の中国遠征をふり返ってみることにする。（写真は北京工人スタジアム）

選手について

1964年初めから全面的は7人制に切り替えた。（日本は1963年4月から）。中国で最も普及しているスポーツは卓球とバスケットボールである。ところが7人制に切り替えたため、バスケットボールの下地が役に立つようになった。事実、卓球、バスケットボールの普及のすさまじいことはとても言葉で表わせないし、実際に目で見なければ信じてもらえないだろう。卓球はどんな体育施設はもちろん、農村の土間にも台が必ずあり、またバスケットボールのリングは、旅を続ける限り視野にとびこんでくる。さる日、万里の長城見学のため北京から北へ80キロほど車をとばした。その万里の長城（長城のあるのは当然けわしい山岳地帯である）の2～3キロ手前の山をけずってバスケットボールコートが一面作ってある。こんなところで、いったいだれがスポーツを行なうのだろうと不思議に思ったが、車が進むにつれて谷間に農家が2軒あることがわかった。この2軒の農家が一面のバスケットボールコートを作ったのである。それほど国民の中にバスケットボールの下地があるわけになる。この子供のころからのバスケットボールの下地を基礎にして、ハンドボールチームができている。

ハンドボールのチームそのものはまだそう多くはない。しかし中国体育総会(協会)の重点種目の一つであることに間違いはない。日本チームと4回（1回は広州チームとして対戦した）対戦したナショナルチームは全員バスケットボールの選手出身で、しかもバスケットボールの中でも優秀なものを選抜して鍛え上げたものだと、体協の要人が説明してくれた。学生のチームには上海チームと、北京チームがあって、上海チームはその大部分が上海師範大学（学校の先生を養成する大学）の学生であったが、やはり全員バスケットボールの出身であった。しかも選手のほとんどが中国バスケットボールのナショナルチーム候補であったと、上海体協の副理事長が教えてくれた。また北京学生チームの中に一段と目だつ3人の左利きの選手がいた。背が高くて動きが早く、しかも肩の強い選手であったと記憶している。「これもバスケットボールからつれてきてきたえ上げた選手です」と説明された。このように大きな組織で、大局的に駒を自由に動かすことのできる国情をうらやましくも思ったりした。

指導者について

極力いろいろなことを話し、かつ聞こうとしたが、なかなか口が重く、全部を卒直に話してはくれなかった。しかし話しの中から総合的に判断して、現在の指導者のほとんどがやはり選手と同様バスケットボールの出身であることに間違いはない。そしてソ連に学んだ人たちが多い。したがって指導者は下地のあるバスケットボールの技術と、ソ連式の荒いプレーを併用して選手に教えることになると想像される。事実駆け引きのうまさ（きたなさ）、身体の使い方、大切な瞬間に審判の目を盗んで行なう反則のきたなさ、故意の反則をカバーする笑顔とゼスチュアなどはソ連チームと全く同じであるといっても過言ではない。これらの指導者が現在教職系大学（卒業したら学校の先生になる大学）を中心に指導している。これはやはり将来の普及の最大のねらいである。それでは国の幹部はハンドボールをどう考えているだろうか？

私が会って話しをした限りの要人は、みな口をそろえて〃ハンドボールはよいスポーツである〃と言っていた。中国のような政治体制の国で、国家の要人が〃中国人民に適したスポーツである〃と言えば、それは〃このスポーツを大いに実施せよ〃ということと同じである。これから数年後にはさらに飛躍発展するものと考えなければならない。

また準備の周到さということでも見習うべきところがたくさんあった。その一つは日本が4月15日から遠征すると決まってから、彼らは3月1日から合宿にはいったという。もちろん私たちが中国を離れる5月7日まで、場所こそ移動したが合宿の連続である。ナショナルチームに限らず、クラブチームであっても中国体育総会(協会)の証明があれば、施設の使用料も合宿費(宿泊、食事、旅費など)も無料であることはもちろんである。ついでだから触れておくが、北京工人体育館(北京労働者スタジアム)のスポーツマンホテルは約1000人の宿泊能力(全部ベッド)があり、700人が同時に食事ができる食堂を備えていた。日用品の売店から理髪屋まであるのには驚いた。

審判について

広州(広東)についてすぐ岡村監督、藤田コーチがルールの打ち合わせを行なったが、解釈その他についても大差なかったそうである。ただし前述のようにほとんどがバスケットボール式解釈が目だつように思われた。その最たるものがプッシングとチャージングの混同であった。身長180センチ体重80キロ程度の選手が全部背中からはいってこられると、チャージを吹いてもらわないとどうにもならない場合がある。次に目だった点はオーバーステップの解釈の差である。これは解釈の違いか、あるいは経験不足による見のがしのミスか判明しないが、見のがされたオーバーステップが多かったように思われる。ゴールジャッジは極めて信頼のおける厳正な判定をしていた。旗の持ち方については国際規格と少々違っていたが、これは経験不足のことで仕方がないことだろう。

観衆について

1試合の平均観衆の数は約6000人と見ればよいだろう。どの都市に行っても試合場の前にたった一枚のポスターがあるだけ。それが時間になるとどこからともなく集まってきて満員になってしまう。マナーは実によく、スポーツの〃つぼ〃をよく心得ていた。おそらくハンドボールを見るのは初めての人も多数混っていたことと思うのだが…。入場料は大体日本円にして50〜100円程度であり、その収入は全部体育館のものになる。その代わりに使用料は無料である。

技術について

専門的な技術については岡村監督が書いていることだろうし、各領域の侵害と重複をさけるため割愛する。ただ特に目についた事柄について触れておく。

(1) ハンドリングがすばらしい。

こんなことをいまさら言うのもどうかと思うが、パスとキャッチというハンドボールとって最も初歩の基礎が、どんなに大切なものであるかを考えさせられた。全試合を通じては彼らはほとんどパス、キャッチのミスがなかった。近代ハンドボールにおいてはパスミス、キャッチミスはそのまま相手の得点につながる。これはいままで何回も指摘してきたが、まさにそのとおりになった。たかだか20メートルと40メートルのコートである。この中だけはどんなことがあっても、正確なパスとキャッチができなければなるまい。足でやっているのではない。手で投げるのだ。

(2) スタミナがすばらしい。

ハンドボールは60分の間に(一般男子の場合)勝負を争う競技である。しからば、60分間はげしく動き回るだけの体力と気力を常に維持していることは選手としての義務であり、責任である。もちろんベンチはメンバーチェンジを行なうが、それはあくまでも戦術上の必要から行なうのが本体である。選手を休けいさせることが第一義ではない。その点、中国の選手は実によく訓練され、鍛えられていた。試合終了のホイッスルが鳴るまで、動きの鈍るような選手はつい見かけなかった。

施設について

どこに行ってもりっぱな施設がたくさんあった。他の社会主義国と同様であるし、またスポーツが国家の重要な一つの分野をになっているところでは当然といえるかもしれない。土地が広いためか、金に糸目をつけないためか、ともかく大きなものが多い。北京の工人体育館は直径146メートルの円型の体育館で、座席1万5千。西ドイツのドルトムンドの大体育館とよく似ていた。同じ北京の北京市立体育館は中央の本館が座席数6千。左側が屋内プール(50メートルと小プール)で、右側は球技練習場で幅40メートル、長さ70メートルの3つの部分からなる一つの体育館である。この国の特徴は、施設の使用料がほとんど無料ということである。無料の上に施設専属のそれぞれのコーチがいて教えてくれる。したがって市民は暇があれば体育館に通うことになる。このような施設が北京だけで大小とりまぜて35カ所もある。参考までに北京の人には新郊外を含めて約650万人である。

(了)

IHFだより

▽アラブ連合(エジプト)ハンドボール協会は9月上旬にカイロで全アラブ大会を開く。

▽ギリシャ陸上競技連盟はIHFに加盟条件を照会してきた。規約、競技規則を送った。ギリシャでハンドボール協会が設立されれば英国、イタリアを除き、欧州各国でハンドボールを実施することになる。

〔表紙写真〕　関東学生女子リーグ、日体大対日女体短大戦から。

私の言葉

今後は中学の普及に

武田兼治
（秋田県協会会長）

ことし4月に日本ナショナルチーム（男子）が日中スポーツ交流のトップバッターとして中国に遠征した。成績は1勝8敗とかならずしもいいとは言えないが、日中両国の親善のために大きな成果をあげたことは見のがせない。さらに11月には西ドイツで開く第3回女子7人制世界選手権大会に日本チームが参加、また明年は日ソスポーツ交流として日本のハンドボールチームが初めてソ連に遠征する。というこのはなばなしい国際交流は日本の実力が世界のレベルに近づきつつあることを物語っている。

日本体育協会の役員改選で高嶋理事長が堂々と理事に選出された。体協の理事になることは、代議士になるよりもむずかしいと聞いています。その意味においても、ハンドボールから理事を送り出したことはビッグニュースである。私は関係者の一人として心からおめでとうを言いたい。高嶋理事長は体協内部においてハンドボールの重要性を説き、海外との技術交流、国内のハンドボール人口の拡充、指導者の育成などに努力してもらいたい。これには本部役員の協力がぜひ必要である。

さて秋田県のハンドボールについて申し上げたい。私は昭和11年、秋田工業教諭時代に県内で初めてハンドボールを授業に採用してみた。生徒は喜ぶし、走力はつくし、非常にすぐれた球技と思った。その後、秋田県保健体育課勤務となったので、県下の各学校にハンドボールを紹介、普及につとめた。ところがどこの学校でもクラブを持つまでに至らなかった。非常に残念に思った。

昭和36年の第16回国体が本県で開催され、必然的にチームを作らねばならなくなった。私は県体協会長の依頼でハンドボールをお世話することになった。そこで日本協会の高嶋理事長に協力していただき、現在では15ないし16チームができた。おかげさまで和洋女子高校チームのように全国水準をいくチームになり、心から喜んでいる。これからは中学校への普及に全力をあげる覚悟でいます。

それからチームの拡充強化、指導者の養成が急務です。できることなら毎年定期的に本部から指導者を全国に巡回させてほしいと思う。ことし9月には秋田県湯沢市で東北6県大会を開きます。このときを利用して本部のエキスパートに指導してもらいたいものだ。秋田県のハンドボールは序ノ口であり、これから発展する余地はじゅうぶんある。このときにおいて真のハンドボールを植えつけておくことが、日本ハンドボール界のためにもなると思う。地方球界の指導をぜひ実現してほしいものだ。（了）

日本は2回戦でチェコと対戦

日本の単独出場認められず

第3回女子7人制世界ハンドボール選手権大会はことし11月7日から13日まで西ドイツで開かれるが、このぼど国際ハンドボール連盟（IHF）から参加国、組み合わせが届いた。

15カ国が参加

これによると参加国は15ヵ国、西ドイツでの本大会には8ヵ国が出場する。15ヵ国のうち、前回優勝のルーマニアと開催国の西ドイツは無条件で本大会に出場する。このため残り13ヵ国で試合を行ない、残る6つの座を目ざして熱戦を展開する。日本は別表のように前回3位のチェコと対戦する。

チェコと2試合行なう

スウェーデン対ノルウェーを一回戦とすれば、日本対チェコは二回戦となる。いずれも2試合行なって勝者を決める。第1試合は各組の上の方に書いてある国で行なう。つまりデンマーク、チェコ、ユーゴ、ハンガリー、ソ連、ポーランドである。日本対チェコは第1試合をプラハで、第2試合を東京で開くことになる。これらの試合はいずれも7月31日までに完了する規定になっている。しかしヨーロッパ以外の遠い国、日本、米国、アイスランドの3ヵ国については規定どおり2試合行なうか、または世界選手権大会開催の8日前（10月30日）までにデンマーク、チェコ、ユーゴで2試合やってもいいことになっている。チェコに勝てば準々決勝に進出する。

日本、日程変更を申入れ

日本ハンドボール協会は5月28日の常務理事会で、「開催日程の変更を国際ハンドボール連盟およびチェコスロバキア・ハンドボール協会に要請する」ことを決め、直ちに連絡をとった。

それは第1試合を9月日本で、第2試合を10月チェコで開くことを申し入れた。この回答は6月30日の期限つきで回答を求めた。もしこの申し入れが認められないときは、10月にチェコへ行って2試合行なう予定。

7月上旬から合宿

日本協会は6月12日に全国理事会を開いてこれを承認した。また世界選手権大会に出場する選手については同協会技術部が中心になって原案の作製を急いでいたが、これがまとまり理事会の承認を得た。これによると一般女子、大学女子の各チームの監督に対して優秀選手を推薦させる。推薦される選手は32人、第1次合宿を7月上旬に行ない、この合宿で16人を選抜してナショナルチームを編成する。

ヨーロッパカップの成績

▽ヨーロッパ各国の女子チャンピオンチームによるヨーロッパ・カップの成績

▽1回戦

チェコ	19－7	フランス
チェコ	16－15	フランス
ユーゴ	14－4	オーストリア
ユーゴ	9－2	オーストリア

▽2回戦

ハンガリー	10－7	ソ連
ソ連	9－7	ハンガリー
デンマーク	17－9	ノルウェー
チェコ	11－8	ユーゴ

—1、2回戦組み合わせ—

1. デンマーク — アイスランド
2. チェコ — 日本
3. ユーゴ — 米国
4. ハンガリー — 東ドイツ
5. ソ連 — オランダ
6. ポーランド — （スウェーデン — ノルウェーの勝者）

2試合の勝負の決め方

A．勝ち点
B．得点差
C．得点の多い方
D．抽選

—前回順位—

1. ルーマニア
2. デンマーク
3. チェコ
4. ユーゴ
5. ハンガリー
6. ソ連
7. ポーランド
8. 西ドイツ
9. 日本

—新参加国—

1. 東ドイツ
2. オランダ
3. アイスランド
4. ノルウェー
5. スウェーデン
6. 米国

世界に誇るこのマーク

あなたの工場を合理化する
工業用ミシン．プレス．縫製附帯設備．電子機器
あなたのご家庭を設計する
家庭用ミシン．編機．電気掃除機．冷蔵庫

東京重機工業株式会社

日本、ついに7連敗

中国遠征第2報

4月中旬から中国に遠征した日本チームは，広州，上海，北京で9試合を行なったが，広州では既報のという1勝2敗。つづく，上海，北京の転戦ではついに6連敗を喫し，総成績は下記のとおり1勝8敗となった。

遠征総成績

	場所	勝敗	成績
4.18	広州	●	日本 19（11—16、8—13）29 広州
20	広州	○	日本 30（17—10、13—10）20 安徽
21	広州	●	日本 14（6—13、8—13）26 中国
24	上海	●	日本 18（9—15、9—11）26 上海
25	上海	●	日本 14（7—13、7—13）26 中国
27	上海	●	日本 17（8—9、9—10）19 安徽
5. 2	北京	●	日本 16（9—10、7—12）22 中国
3	北京	●	日本 15（4—8、11—8）16 北京学生
5	北京	●	日本 12（2—11、10—8）19 上海

注＝中国はナショナルチームです。

中国GKが得点あげる

◇第4戦（4月24日、上海市人民広場グラウンド）

上海 26（15—9、11—9）18 日本

▽レフェリー 岡村

上海		得	日本	得
GK	黄往国	1	福本	0
GK			島崎	0
FP	金永昌	1	竹野	5
FP	周兆雲	0	東	1
FP	沈東	4	宮原	0
FP	徐開安	1	田口	0
FP	錢中駿	4	北村	0
FP	蔣貴友	4	青木	4
FP	呉清章	3	井上	3
FP	盧天送	0	市原	4
FP	何啓芳	5	金田	1
FP	黄済財	1	西村	0
FP	卞秀如	2	森田	0
7MT		(1) 26		18 (1)

〔退場〕蔣、市原。

〔評〕また凡ミスが続出して敗れた。全員が調子を出せず、プレーはバラバラ。帰陣がおそいうえにスタートダッシュもなく、速攻はほとんどなかった。竹野、市原らポイントゲッターの動きもかなり鈍く、シュート率は3割以下。

前半15秒のスローオフから蔣がミドルシュートを決めて先行。このあと青木が右から強引に持ち込んで1—1としたが、上海は得意のバスケットボール式のセットオフェンスをかけて7分から17分の間に5ゴールをあげた。一方日本はこの間に得点なく、13分に竹野、青木が決めて8—5と追いすがった。上海は何が左サイドから連続3点をあげ、前半は15—9。

後半にはいっても開始直後に東のパスミスからノーマークシュートを許し、竹野、市原らのシュートが上海バックスにカットされて速攻をかけられた。日本は気力に欠け、帰陣するものがほとんどなく、ゴール前はがら空き。

後半21分に上海ゴール前でラインクロス。上海GKの黄にフリースローを許し、これがゴールイン。GK島崎が出すぎていたのを黄がロングシュートしたもの。好判断といっていい。上海チームはもとより、中国の各チームはノーホイッスルのフリースロをよくマスターしていた。日本チームはチャンスをとらえることがへただった。勝ってやろうという気力とボールへの執着心がなさすぎた。

すばらしい青木のプレー

◇第5戦（4月25日、午後3時30分、上海市総合体育場＝室内）

中国 26（13—7、13—7）14 日本

得	中国			日本	得
0	陳維政	GK	GK	島崎	0
0	曹俊鴿		FP	竹野	4
1	楊霊藩	FP		東	1
4	荆之藹			宮原	0
2	岳洪財			田口	0
2	袁志祥			北村	1
1	徐国基			青木	6
0	周源成			井上	0
4	李志連			市原	1
0	王洪林			金田	1
3	朱炳亢			西村	0
4	王供橋			森田	0
5	卜憲章				
26	(2)	7MT		(1)	14

〔評〕中国ナショナル・チームとは3度目の対戦、ぜひ勝ちたい試合だった。前半で6点差がついたものの、日本の調子はやや上向き。相手オフェンスのセットプレもよく知り、後半は早めのつぶしが効いていちじは14—11と3点差まで迫った。しかしここひと押しに欠け、試合終了前に速攻から連続得点を許して敗れた。

前半は中国のペース。7分まで李のポストプレーで5—1とリードされた。このあとコーナースローから竹野がポストにいた金田にバウンドパスを送り、金田飛び込んで1点を返した。このあと当たりの出てきた青木が7MTを決めて追いすがる形となったが、いぜん攻めがまずく、中国の逆襲を許して約10分間ノーゴール。

後半はおもしろい経過をたどった。開始直後に竹野が左45度から回り込んでジャンプ・シュートを決めた。中国の李がゴールしたあと、好調の青木がバックをきれいに抜いて倒れ込みシュート。次いで6分、7分と青木がフェイント・シュートで14—11と3点に迫った。ここで中国のオーバー・ステップから日本ボールとなったが攻めあぐみ、竹野が無理なシュートを放った。このボールを得た中国は強引に速攻をかけ、井上ひっかけて7MT。GK島崎はトのシュートに逆をつかれながら左足で見事なカバー。再び日本ボール。ここが試合のヤマ場。東のパスがカットされ、朱が9メートルラインから長身を利してスタンディングぎみのシュート。これが成功して4点差。このあと日本は6分間無得点。この間に中国は徐、朱、荆がネットをゆるがして8点の大差がついた。試合はここで決まった。14分青木、17分竹野が決めたものの、帰陣のおそいのをつかれて一方的なスコアとなった。

しかし敗れたとはいえ、日本はあとひと息。せり合いに位（くらい）負けしないファイトがあったら、なんとかなっていたろう。青木が身長差を巧妙な技術でカバーし、6点をゲットした。この根性を全員が見習ってほしいものだ。

〔写真上〕第4戦後半19分井上のシュート〔2段目〕上海チームとの記念撮影〔3段目〕第5戦金田のシュート成功したが、惜しくもラインクロス〔下〕少年宮を見学。

7Mスローで敗れる

おそい帰陣、甘い守備

第6戦一金田のポストプレー成功

◇**第6戦**（4月27日午後3時30分、上海市民広場グラウンド）

安　徽　19（9—8 / 10—9）17　日　本

▽レフェリー　李光佳

安徽		得
GK	劉新民	0
FP	王元祝	2
	張漢忠	2
	馬家琪	0
	陳伝光	0
	鄧昭民	5
	陳観祥	2
	張玉林	3
	孫為仲	0
	李本友	3
	程法瑛	0
	年介勤	2

日本		得
GK	福本	0
FP	竹野	3
	東	2
	宮原	0
	田口	0
	北村	1
	青木	5
	井上	1
	市原	3
	金田	2
	森田	0

〔退場〕　陳伝光、王

17　(1)　7MT　(5)　19

〔評〕　また負けた。安徽チームとは広州市で対戦し、このときは30—20と10点差をつけて日本が勝っている。この試合では日本に良いところがなく、2点差で敗れた。それに比べ安徽は日本のポイントゲッター竹野、市原をマークして早めにつぶす作戦に出た。さらにポストにはいろうとする金田、井上らの腕をつかんで動きを止めた。

試合は8分まで互いに7MTを1本ずつ失敗して無得点。9分井上がパスカットから単独で得点した。試合の主導権を握るチャンスだったが、9分30秒竹野が速攻からノーマークを落としてしまった。このあと安徽は11分、12分に鄧が7MTを決めて逆転。これを境いに日本が1点を追う結果になってしまった。

後半のヤマは11—11のあと、8分30秒に青木が、13分50秒金田が決めて日本がそれぞれ1点をリードしたときだった。日本は14分から20分まで無得点。一方安徽は王、陳伝光の二人が退場して4人で攻める場面もあったが、陳観祥、孫がロングと決めて同点。さらに鄧が7MTを2本決めて2点をリードしてしまった。日本は必死に追撃したが、タイムアップとなった。

GK劉が高め、近めに強いことをベンチから再三指示したが、好きなコースに打っては逆襲機を許した。帰陣のおそいのをカバーしようとして相手をつかんでは7MTをとられる始末。また中国側のレフェリー李光佳がオーバーステップぎみのフェイントや突進を取らなかったために、強引なカットインを許して失点する不運な場面もないではなかった。日本の敗因はディフェンスの甘かったこともある。わずか17点しかあげられなかった攻撃力も一因ではあるが、帰陣のおそいこと、キャッチ、パスのミスが続出したのは一考を要する。

写真下　上海ビルの屋上から黄浦江を望む。

日本を上回る中国ナショナルチーム

◇第7戦（5月2日午後3時、北京総合体育館、観衆一万）

中国 22（12―7／10―9）16 日本

▽レフェリー 岡村

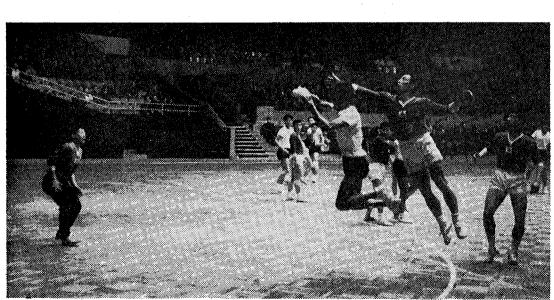
得	中国		日本	得
0	陳維政	GK	福本	0
0	李宝栄	GK		
3	朱炳亢	FP	竹野	6
3	楊霊藩	FP	東	3
0	岳洪財	FP	宮原	0
1	袁志祥	FP	北村	0
0	関香閣	FP	青木	2
0	王供橋	FP	井上	4
0	王洪林	FP	市原	0
7	劉延江	FP	金田	1
1	荊之譪	FP	森田	0
2	李志連	FP		
5	卜憲章	FP		
22	(3)	7MT	(2)	16

〔評〕 日本は惜しい試合を落とした。前半9分までに竹野1、東2、井上2の計5点をあげ、5―1とリードした。このあと7分間無得点。この間に中国は左足負傷のエース劉を起用、ポストからボールを回して強引に打たせる作戦が成功した。劉は10分、11分にゴールを決め、朱が中央を割って5―4と1点差。15分劉の7MTをGK福本の見事なプレーで押え、これに奮起した金田、青木がフェイント・シュートを決めて7―4と3点差をつけた。

ここで水をあければ勝てた試合だったが、負けぐせのついた日本はまたまた凡ミスが続出。中国は竹野―金田のディフェンスを執ように攻め、同じ型から2点を返して1点差。22分に竹野が横流れから意表をつくシュートを2本決めて3点差としたが、以後8分間無得点。

中国は二番手のGK李宝栄を起用した。李は小がら。レギュラーの陳に比べて技術的に下という評価だったが、この日の李のプレーはすばらしかった。日本はGKが李なら「打てばはいる」という考えから、やや雑なシュートを打ちすぎた。ところがうまく押えられ、早いボール出しにあってしまった。まず23分楊、25分、26分に劉が決めてあっという間に同点。27分にはフリースローからの早い攻めに朱がノーマークとなって日本ゴールをゆさぶり、中国が初めて1点をリードして前半を終わった。

後半開始直後、井上がノーマークを落としたあと、東がフェイントにひっかかって1点を失い2点差。日本も竹野がよく突っ込んで3分、7分、8分にゴールを決めたものの、中国もこの間に2点をあげていぜん中国リード。中国は19分から10分間に6ゴールをあげて日本を突き放した。この試合岡村監督が笛を吹き、中国側のチャージ、オーバーステップをかなりきびしくとったので、中国側は不満顔。しかしダブルポストからの最後の攻めはなかなかスピードがある。日本に比べて体力的にも技術的にも数段〝上の存在〟だ。中国のナショナルチームにはついに勝てなかった。

第7戦＝後半開始直後、北村うまくカットに成功、左はGK福本

第8戦―北京学生の荆のシュート成功

成功した速攻は1回だけ

◇第8戦（5月3日午後7時30分、北京工人体育館）

北京学生選抜 16（8－4 / 8－11）15 日本

▽レフェリー　岡村

得	日本		北京学生	得
0	島崎	GK	王杰	0
0	福本	GK		
5	竹野	FP	杜永明	0
0	東	FP	馬文忠	0
0	宮原	FP	陳自安	5
1	田口	FP	韓寅達	1
1	北村	FP	周志煥	1
5	青木	FP	孫克言	1
0	井上	FP	荆之蠡	5
2	市原	FP	朱乗亢	3
0	金田	FP		
0	西村	FP		
1	森田	FP		
15	(0)	7MT	(0)	16

〔退場〕　荆

〔評〕　北京学生選抜チームはバスケットボール選手をピックアップした即製チーム。そのチームに対して日本は前半4点しかあげられなかった。全くふがいない。後半追い込んだものの、タイムアップ2分前に決勝の1点を許してもろくも敗れた。しかもこの試合で北村がねんざ、西村が肉離れして負傷退場する始末。高嶋団長は「アップしているのか」とがっかりしていた。なんといっても敗因は気分的なものを第一にあげざるを得ない。というものがない。ナショナルチームはもっとしっかりしてほしいものだ。

さて試合は凡戦の割りには観衆が沸いた。それは後半日本の追い込みがあったからだ。後半は青木、市原、竹野に当たりが出て16分、17分に竹野が決め、初めて13－11と日本が2点リードした。ここでまた絶好のチャンスが訪れた。田口のパスカットから青木がノーマーク。ところがGKの正面にたたきつけてフイにし、3点差にできなかった。このあと北京学生は朱がゴール前後に流れながらジャンプシュートして1点差。30秒後にも同じ攻撃から同点とした。

しかし日本は田口が打った強引なシュートがバックの手に当たってGKの逆をつくラッキーな得点で14－13とリード。北京学生はすぐ速攻をかけ、陳がゲットして14－14。このあと中国ナショナルチームの荆がカットインから逆転。この1点が最後まで響いた。残り時間2分になって日本はオールコート・アタックに出た。

日本はパスカットから速攻をかけたが、体勢のくずれた青木のシュートはバーの右上に当たり、そしてホイッスル。

試合終了後、高嶋団長は「結果はともかく、力を出し切ったプレーをするよう」に選手に要望した。日本は前半島崎、後半福本をGKに起用、ふたりとも前に出てすばらしいファインプレーをみせた。得点15はちょっと寂しい。速攻が成功したのは森田のシュートがたった1回。速攻のチャンスを落としたのは大きな敗因。

◇　◇　◇

私の提案

中国遠征の報告会を

杉山　茂

「勝てば官軍、負ければ賊軍」とはよく言ったものだ。日本のスポーツ界は負けると、すぐ悪口や責任問題がとび出す。ハンドボールの中国遠征の結果もご多問にもれないらしい。1勝8敗という成績は確かに首をかしげさせられるが、中国の実力がヨーロッパの一流国なみと聞けばやむを得ない結果だ。来年は中国の男女両チームが日本に乗り込んでくるという。少なくともそれまでには今回の遠征の経験を生かして、互角の線にまで日本側の力を引き上げておくことが必要であろう。そのためには今回の遠征メンバーがあらゆる機会に中国の実力を分析して、国内の指導者やプレーヤーに報告してほしいと思う。

それも与えられた機会だけではなく、進んでそういう機会をつくってもらいたいものだ。これまで、数回にわたる海外遠征の結果、そのほとんどは「報告書」だけで終わっており、直接、海外での体験を見聞きする機会はあまりつくられていない。「中国遠征での完敗を機に…」といっては失礼かもしれないが、遠征メンバーの成績は、国内全プレーヤーの反省の資料であり、研究課題であるといった姿勢と習慣をつけたいもある。役員だけでもよいから、中国遠征報告会を全国巡回して開いてくれないものであろうか。

将来、中共がIHF（国際ハンドボール連盟）に加盟したときは、世界選手権などの予選で当然顔を合わさなくてはならない。今回の1勝8敗にこだわって責任問題などを口にするよりも、球界あげて〝中国対策〟を考えねばならない。

（NHK名古屋中央放送局勤務）

▼▲　▼▲　▼▲

負傷者続出の日本

◇最終戦（5月5日午後7時30分、北京工人体育館）

上海 19（11—2 / 8—10）12 日本

▽レフェリー 李

得	上海	
0	黄往国	GK
0	金永昌	FP
1	周兆雲	FP
1	沈　東	FP
3	徐開安	FP
1	銭中駿	FP
5	蒋貴友	FP
3	卞秀如	FP
2	呉清章	FP
2	何啓芳	FP
1	盧天送	FP
0	黄済財	FP
19	(1) 7MT	

得	日本	
0	福　本	GK
3	竹　野	FP
0	東	FP
1	宮　原	FP
4	青　木	FP
0	井　上	FP
0	市　原	FP
2	金　田	FP
2	森　田	FP
12	(0) 7MT	

〔退場〕宮原2回

〔評〕各選手とも汗をかき、からだもダルそう。開始直後、下にチャージぎみのカットインから決められ、3分には何に押しまくられてから日本は動揺しはじめた。結局12分に竹野が得点するまでは全くいいところなし。21分に竹野が下から打って4点差としたが、そのあと9分間に5点を許し、前半は11—2。全く情けない。

後半は上海のパスの乱れに恵まれて攻め込んだ。しかし凡ミスは相変わらず。青木がノーマークのケースを3度も落とせば、竹野、井上あたりもパスミスの連発。後半は青木が4点、金田のポストプレー、宮原のサイド攻撃でがんばったが、逆転するに至らなかった。この試合で市原が呼吸困難で倒れ、青木、宮原もいちじ負傷退場。このほか北村、西村も欠場した。

写真上は中国の子供たちの握手攻めに合う高嶋団長。中は趙上海市長と握手する日本選手団。下は趙上海市長、郭上海体協副会長と歓談する日本選手団役員

メーデーに子供たちを訪問した選手団

1972年ではおそすぎる 今秋のIOC総会に望み

五輪種目採用をめぐって

ブランデージIOC会長 採用すべきと発言

境井秀三
（日本協会常務理事・国際担当）

1972年ではおそすぎる

国際連盟執行部はこのような認識に基づき、昨年のブダペスト総会で1972年大会の種目にハンドボール採用するよう要望するむね、IOCあての決議文を採択した。しかしそれに対し『1972年ではおそすぎる』という意見を持つ国もかなりあり、ことし2月18日付けでフランス協会はこのことに関し世界各国へ文書を送った。内容は次のようなもので、国際連盟会長あて意見を具申した。フランスの意見に同調する国は、直ちにフランス協会へ連絡をとるよう希望している。

IOC競技種目を再検討

1965年2月18日
フランスハンドボール協会
会長 N・ペルー

国際連盟は広報第53号（1965年4月）で、「メキシコ大会でハンドボールが採用されるチャンスは少ない。しかし1972年の大会での採用は確実とみられる」という態度を表明している。最大18種目を実施するという数年前のIOC決定事項はまだ生きている。日本、メキシコなど開催国が立候補にさいして表明した全種目実施の約束もそれに拘束され、4種目は削除されることになる。現にメキシコ大会組織委員会は今秋マドリードで開かれるIOC総会に提出する案は次の19種目であり、ハンドボールははいっていない。

陸上競技、ボート、バスケット、カヌー、自転車、フェンシング、サッカー、体操、重量あげ、ホッケー、レスリング、水泳、水球、近代五種、馬術、射撃、（クレー、ライフル）、バレーボール、ヨット。

欧州での五輪に見通し？

しかしながらメキシコ大会を最後としてハンドボールが不当にも（純粋アマチュア主義の立ち場から）除外されることはなくなるだろうとしている。その理由としてハンドボールがヨーロッパ大陸以外でなしとげた大きな発展と――これがオリンピック実施種目まで積み上げるための基礎的条件であるとしている――もうひとつ1972年大会はたぶんヨーロッパの都市に割り当てられるという見通しをあげている。現在1972年大会の候補都市としてはモスクワ、ウィーン、ブラッセル、パリ、リヨン、ブダペストが話題に上がっている。

注目されるブ会長発言

このようにメキシコ大会で参加できる可能性は少ないとしても、われわれは決して努力をおろそかにしているものではない。国際連盟が編集した四カ国語の宣伝パンフレットを各国IOC委員はじめ関係者に送付し、非常な効果をあげた。加盟各国協会が自国IOC委員と接触をとりハンドボールを支持させるよう努力してもらいたいむね何回かお願いしてある。また4月12日ローザンヌで行なわれたIOC、IF（各競技国際連盟）の合同会議に、国際ハンドボール連盟からバウマン会長、ワグナー理事長が出席した。席上IOC会長ブランデージ氏は「個人的意見としては、ハンドボールを大会実施種目に採用すべきだと思っている。またハンドボールをスポーツとして高く評価している」むね発言し、注目されている。

国際ハンドボール連盟
会長ハンス・バウマン殿

拝啓　将来のオリンピック競技種目にハンドボールを入れることに関し、先のブダペスト総会で満場一致の賛成を得た。これは会長とともに喜びとするものである。しかしながらブダペスト総会の討議のさい、全員がオリンピック種目への採用のための努力するべく一致をみたが、その努力は1972年大会に向けられている。1968年のメキシコ大会では、この国にハンドボールが行なわれてないという理由で実現があきらめられていた。

ここにこの問題を再び採り上げたのは、ブダペスト総会後に新しい事実が生じたからである。というのはことしにはいり、**I・O・C・は競技実施種目の全面的な再検討を考えている。**いままでの実施種目を変更し、ある種目を削除し、ある種目を新たに採用しようとしていることが確認された。フランスのスポーツ大臣がこのことをわれわれに通知してくれるとともに、近く行なわれるIOC決定について仲介の労をとるべくわれわれを励ましてくれた。このような理由によりわれわれはメキシコ・オリンピックにハンドボールを認めさせるため、強力なキャンペーンを直ちに行なう必要があると考えたわけであります。この示唆を具体的にするため、われわれは次のとおり活動計画を提案します。

1、国際連盟が出版した宣伝パンフレットを各国オリンピック委員会だけでなく、IOCの全委員の個人住所あて送付する。

2、加盟各国協会が自国のIOC委員と個別に会談するか、会議を開くかして、ハンドボールを支持するよう意見を変えさせるための具体的方法を指示する。

3、ハンドボールがまだ行なわれてない国のIOC委員に対し、国際連盟会長、または役員が直接訪問して個人的な接衝を行なう。

以上はわれわれが実現させようとしている計画のアウトラインにしかすぎない。その実施についてわれわれは会長に一切の権限を与えるものである。(了)

日本は22種目を主張

また日本協会もフランス協会と同じ意見であり、すでに昨年10月理事長名で次のとおり国際連盟会長あて日本の意見を表明している。

1964年10月22日
日本ハンドボール協会
理事長　高嶋　冽

国際ハンドボール連盟
会長　ハンス・バウマン殿

拝啓　9月28日付けの手紙受け取りました。しかし会長から送付された総会決議文と宣伝パンフレットは10月21日に入手したので、IOC総会開催日にIOC委員にそれらを手渡すことができなかった。それで委員宿舎の帝国ホテルにある組織委事務所を通じて各委員に配布してもらうことにした。

さてオリンピック大会へのハンドボールの採用に関する日本での状勢と意見は次のとおりです。国際ハンドボール連盟が直ちに採用のため、必要な措置をとられるよう強く希望します。

1、日本ハンドボール協会の要請により、日本オリンピック委員会はIOC総会の席上、1968年メキシコ・オリンピックの競技種目数をハンドボールを含む22種目とするよう強く主張した。IOC総会は1968年大会実施種目を再検討することとし、その決定をマドリード総会まで保留した。日本は国際ハンドボール連盟のブダペスト総会での決議のように、1972年大会にハンドボールを採用させようとするのではおそすぎるという意見である。

2、マドリードのIOC総会では、ヨーロッパの委員の出席が過半数を占めるものと予想される。このため国際連盟は1968年オリンピック大会にハンドボールを採用させるため各IOC委員に直接働きかける。さらに各国協会に自国IOC委員と接触をとらせ、マドリード総会でハンドボールの採用を支持するよう説得させるべきである。同時に国際連盟はオリンピックで男子7人制競技を実施する意向であることを表明すべきである。これが日本の意見であるが、またIOC委員の支持を得るための近道であると信ずる。

3、東京オリンピックにさいし、このわれわれの経験からみてオリンピック大会開催国(メキシコ)にハンドボール協会がないということはオリンピック大会にハンドボールを採用するということとなんら直接の関係がないと思われる。実施種目はIOC委員の投票によってのみ決められるものであるからである。(了)

21種目の開催を考慮？
メキシコ五輪組織委

前号によれば、1968年のメキシコ大会でハンドボールの開催は見込み薄とされているが、主催都市であるメキシコ側は競技種目について余裕のある考えを持っていると伝えられる。IF会議加盟21競技をすべて行ない、現在除外されている**ハンドボール**、洋弓(アーチェリー)、柔道の参加も拒まないとしている。この考え方はIF(国際競技連盟)の要望を満足させるものだ。今秋マドリードで開かれるIOC総会で激しい議論がかわされよう。

ベルギー「体育レビュー」から

ハンドボール 創生と発展

ジュール・レベリエゲール

ベルギー体育協会機関誌「体育レビュー」はハンドボール特集号を編集し、ハンドボールの審判、コーチなど各分野について世界的に有名な専門家に執筆させた。以下何号かに分けてその内容を紹介する。

「目次」

ハンドボールの創生と発展

ジュール・レベリエゲール

〔筆者紹介〕 リエージュ専門学校首席体育教授、ベルギーオリンピック委員会委員、ベルギー・ハンドボール協会名誉会長、ベルギー体操協会会長。

現在青少年、大衆の間で広く行なわれている各種スポーツの起源を、厳密な意味でつきとめることは容易でない。しかしながら遠い過去までその発生をさかのぼっていった場合、各競技の大部分がむしろ比較的新らしく、20世紀前半に現在行なわれている形態に固まってきたものであることがわかる。まず現在のハンドボールは体操競技の中で発生し、成長を始めたものであることが確認できる。すでに第1次世界大戦前に、体操選手の間で室内でのあまりにも静止的な運動に対する反動として陸上競技や水泳その他屋外競技のようによりダイナミックで柔軟で楽しいものに体操をしようとする動きがみられた。私などはこの動きに参加したものであり、いまではそれがよかったと思っている。

新しいチーム競技がドイツに現われ、人々の注意をひいたのは大戦最中の1917年であった。それはベルリンの女子体操競技の教師マックス・ハイゼルにより考案されたもの。首都ベルリンの大通りの並木道でハイゼルの女子生徒により実演された。このチーム競技がハンドボーであった。どうして女子のため競技であったか。サッカーを男性のための荒いスポーツとし、女性のための健康でエレガントな屋外スポーツを求めようとしたものと思われる。しかし創生期によく見られることは、お互にかなり離れた場所でありながら、同じようなものが自然発生的に同時に生じていることが多い。1931年に私自身聴講生として第一回リエージュ地方体育講習会に出席したとき、ルシアン・デムー教授はわれわれに「三区画ハンドボール」を行なわせた。私はこれをリエージュの体操競技サークルの指導者のもとに持ちかえった。そして1915年から1918年の間に多数の試合と大会を行ない、競技規則を固めていった。戦争が終わり、準備もじゅうぶんであったので、われわれは1918年に「三区画ハンドボール」の競技規則を含む解説書を編集した。このスポーツを純粋に体育に適したものにしようとした。その当時の競技規則のいくつかの条項は現在でも残っており、われわれにほほえみかけてくる。

さらにプラハでの第1回チェコ労働者オリンピックに私がリエージュの体操チームを連れて行ったとき、一種の新しいボール競技が行なわれているのを見た。この国でもまた体操、陸上競技、水泳など選手の訓練のためにハンドボールを行なうこととし、その方式を固めるべく探求していることがわかった。1921年にドイツ体操協会はフランクフルトでの総会で、屋外11人制ハンドボール競技規則を採用した。この規則には男子および女子のためそれぞれ特別の条項が含まれていた。そしてこの年に公式の第1回ドイツ選手権大会が開かれ、男子はスパンダウ・クラブ、女子はオルデンブルグ・クラブが優勝した。

われわれは1921年にプラハへ、1922年にライプチヒへと、遠征し、実地に11人制ハンドボールの技術を学ぶことができ、価値あるものと悟った。それでわれわれの「三区画ハンドボール」を放棄することにした。そしてドイツの競技規則を導入し、それに基づき国際的にも対抗できるだけの力を養うよう努力を始めた。諸外国もこの時期にドイツから競技規則を導入し、活動を始めたようである。

その翌年（1926年）ケルンの国際陸上競技連盟の中にハンドボール部会が設けられた。それ以後ハンドボールは独立のスポーツとして発展を進めることになった。1927年にはスイスが初めて選手権大会を開催し、ローザンヌの体操クラブチームが優勝した。この間にスカンジナビア諸国も仲間にはいり、1928年に初めて国際ハンドボール連盟が彼らにより設立された。1936年に、ハンドボール（11人制）はベルリン・オリンピック大会種目として採用された。そしてその2年後の1938年国際ハンドボール連盟は初めての世界選手権大会を行なった。その結果、第1位ドイツ、第2位オーストリア、第3位スイス、第4位ハンガリーとなった。

第2次世界戦争が終わると各国のハンドボール指導者は直ちに活動を始めた。その中には各国での

新しい組織づくりがあった。1946年7月10日から13日までコペンハーゲンにデンマーク、フィランド、フランス、ノルウェー、オランダ、ポーランド、スウェーデン、スイスのハンドボール協会代表が集まり総会を開いた。その総会にはさらにオーストリア、ベルギー、ルクセンブルグ、ルーマニア、チェコ、ハンガリー、米国の委任があった。総会はかつての国際アマチュアハンドボール連盟はすでに存在せず、新しい組織として国際ハンドボール連盟を設立することを宣言、ハンドボールに新しい将来を開いた。スウェーデン協会が準備した規約および競技規則が総会で採用された。そして国際連盟の事務所はスウェーデンに置かれ、スウェーデン協会が事務を引き受けた。（1950年からスイスに移されている）。新国際連盟となってから世界選手権大会が次のとおり開かれた。

▽1948年男子11人制（パリー）優勝スウェーデン
▽1952年男子11人制（スイス）優勝ドイツ
▽1954年男子7人制（スウェーデン）優勝スウェーデン
▽1955年男子11人制（西ドイツ）＝優勝ドイツ
▽1956年女子11人制（西ドイツ）＝優勝ルーマニア
▽1957年女子7人制（ユーゴ）＝優勝チェコ
▽1958年男子7人制（東ドイツ）＝優勝スウェーデン
▽1959年男子11人制（オーストリア）＝優勝ドイツ
▽1960年女子11人制（オランダ）＝優勝ルーマニア
▽1961年男子7人制（西ドイツ）＝優勝ルーマニア
▽1962年女子7人制（ルーマニア）＝優勝ルーマニア
▽1963年男子11人制（スイス）＝優勝東ドイツ
▽1964年男子7人制（チェコ）＝優勝ルーマニア

私はたった1人の女子選手

フランス・ステラ・チーム
イオランド・アントロアニー

日本遠征印象記

昨年6月フランスのステラ・スポーツの男女両チームが来日することになっていたが、女子チームについてはフランス・スポーツ高等委員会が女子体育教師に休暇を与えなかった。このため同チームのGKであるイオランド・アントロアニー嬢がただ一人の女子選手として男子チームに同行した。同選手は京都、熊本、水俣での模範ゲームに参加し、好評を博した。そこで彼女の印象記を掲載する。

私にGKの注文

ステラ・女子チームが日本に遠征できなかったのは非常に残念なことでした。私はたった一人の女子選手として日本のハンドボールを直接見聞できたことは光栄でした。ただ女子チームの来日というので準備された日本の女子チーム関係者にご迷惑をおかけしたことに対し、心からおわびいたします。そこで私はなにかお役にたつことがあれば、お手伝いしたいと考えておりました。私が考えていたことが実現してよかったと思いました。私にGKをやってくれないかという注文でした。この注文はむずかしいことでしたが、日本側の熱心な要請、それに心からの大歓迎を見て断わることができませんでした。

すばらしい日本女子チーム

それで私は日本側の希望を心よく受け入れ、日本の大観衆の前に立ちました。私の未熟なプレーが少しでもお役に立てば…と思い、精いっぱいプレーしました。広くてりっぱな京都の体育館。私は日本チームの模範ゲームの後半にゴールを守りました。私は瞬間、大いにとまどいました。それは日本の女子選手の活発でしかも非常に早い動き、じゅうぶんな経験を積んだすばらしいプレー。私も負けずにベストを尽くしました。私は練習不足、未熟なため日本のハンドボール愛好者に満足していただけなかったと思います。でも日本―フランスの親善に少しでもお役に立ったことと思えば気が軽い。京都で出場したので少し気持ちの上で余裕が出ました。熊本へ行ったとき、二回目の申し入れを心よく引き受けることができました。私はすぐ熊本の大洋デパートチームにとけ込み、前後半とも無事ゴールを守り通しました。日本の女子チームの人たちは、フランスの選手を加えてプレーしたことを喜んでくれました。非常に成功しました。

大家族の大洋デパート

熊本の大洋デパートチームは1日3時間の練習をやっているとか。このチームはひとつの大家族を形成し、同じ職場で働き、全選手が同じ寮で生活している。彼女たちは私たちフランスチームに友情、スポーツのすばらしさを示してくれました。これは私たちにとって大きな収穫といってよいでしょう。翌日燃えるような太陽の下で三回目の試合を行ないました。室内よりも屋外でのゲームが彼女たちのプレーをよりよくしたことがわかりました。ハンドボールはやはり〝太陽の下で〟やるべきだということがはっきりしました。彼女たちのチームはステラ・女子チームと親善試合ができなかったことを残念に思っていました。私はそれを私の肌で感じとりました。こんどの日本遠征で日本はスポーツを愛好する国民であり、スポーツ施設の実にりっぱなことに驚きました。この日本―フランス国際親善試合を通じて両国間の友好関係はますます堅く結ばれ、それが最も大切であり、また最も美しいものであることを信じました。日本のみなさん、どうもありがとう。〔ステラ誌から〕

エールフランス

パリへの直行便 〈北極回り〉

ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE

LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE

à Votre Service

東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表　名古屋市中村区広井町3－88　大名古屋ビル　電話（54）0540

楽書帖

2つのハンドボール

杉山　茂

▽…本誌21号の拙稿・展望記事（14ページ）の中で「東京YMCAクラブが27年ぶりに復活しそうだ」と書いたが、どうもようすがおかしい。気になって調べてみると、なんとこのハンドボールクラブは、いわゆるアメリカ式と呼ばれる「ウォール（WALL・壁）ハンドボール」のクラブであった。筆者の不明をおわびする次第だが、同じ名前で性質を全く異にした競技があるのは、恐らくハンドボールだけだろう。「ポロとウォーターポロ」、「ホッケーとアイス・ホッケー」、「フットボールとアメリカン・フットボール」など似たような名はあるが、はっきり違った競技であることがわかる。

▽…アメリカでは普通、ハンドボールというとウォール競技を指す。ニューヨーク・タイムズの「スポーツ年鑑」ではハンドボールチーム、ハンドボールの2項目があり、われわれの親しんでいる方は後者である。それがヨーロッパ側の新聞や雑誌、それに日常の会話でハンドボールといえば、当然のこととして私たちの親しんでいる競技を指す。まぎらわしい話である。筆者は「2つのハンドボール」にもう一つ思い出がある。昭和29年春、関東学連から分離した東京6大学リーグのホームグラウンドは、明治神宮外苑の絵画館前の広場（現軟式野球場）だった。なぜここを本拠地にしたか。地の利ももちろんだが、当時その広場の一角に建て物があり、そこに大きくハンドボールコートと書かれてあるのがヒントになった。

▽…つまり、その建て物は、進駐米軍のレジャー用の「ウォール・ハンドボール・コート」だったのだ。リーグの関係者はそんなこととはツユ知らず、その文字は広場全体を指しているのと思い、建て物は更衣所かなにかに解釈したわけ。管理者側もハンドボールが二種もあるとは知らず、広場の借用はすぐOK。2つのハンドボールのお蔭で地の利を得た同リーグは、駒沢の関東学連よりも多くの観衆を集めてにぎやかに試合を進めていたものである。

▽…ところで「ウォール・ハンドボール」というのは、アイルランド地方で始まり、かなり古い球技らしい。高さ約5メートル、幅6メートルの壁に平手でゴム製のボールを打ちつけて得点を争うゲーム。シングルスとダブルスがあるところからも、これは個人競技だ。壁も、片面、両面、全面などあるらしいが、ルールや試合方法はよくわからない。暇を見てのYMCAジムを訪れ、体験して来ようと思っている。

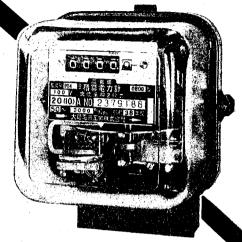
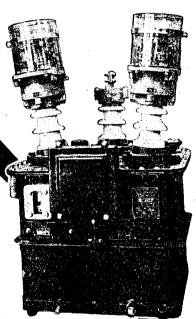
▼▲　▼▲　▼▲

時評

急げナショナルチームの編成
みんなの力で強くしよう

「また負けたね」「何回勝ったの」「日本はそんなに弱いのかね」「このぶんじゃ、もう日本はアジア代表として世界選手権に出場できないね」「完全に中国に追い抜かれたね」…友だちからこんなことを言われたとき、私はアナがあったらはいりたい気持ちだった。これは中国遠征の日本チームの話である。1勝8敗—国際試合の成績としてはちょっと寂しい。中国が強いということはうわさには聞いていたが。まさか日本がこんな不成績を残すとは想像もしていなかった。日本チームが羽田を出発するとき、私は岡村監督に「3勝すれば上出来だぜ」と言ってやったが、結果はそれ以下の成績。親善試合だから勝負は度外視してもいいが、国際ハンドボール連盟に未加盟の中国にコテンコテンにやられてはお先真っ暗。

中国を甘く見てはいなかっただろうが、とにかくショッキングなニュースであることには間違いない。1965年10大ニュースのトップ候補は決定的。ルーマニアが日本遠征の途中、中国で試合して接戦したとか、中国の八月一日チーム（FIRST AUGUST TEAM）がソ連遠征して勝っているくらいだから、かなり強力なチームであることは事前にわかっていた。しかも中国は日本チームの遠征に備えて3月1日から1カ月間、ナショナルチームが合宿にはいっていたという。「日本は選手選考でスタートが遅れ、1週間の合宿では太刀討ちでないのも当然」といっては言い過ぎだろうか。これをよい機会にして日本のハンドボール界は大いに結束して、きたるべき世界選手権、さらに来年中国チームが日本を訪問するので強化策に本腰を入れてほしい。またなぜ中国に負けたのか。日本協会の首脳部は大いに反省してほしい。

そこで私は本誌20号の「私の提案」で言ったようにナショナルチームの編成を急ぎ、年に二、三回は強化合宿すべきだ。これは男子に限らず女子にも同じことがいえる。合宿をやるからには経費はかなりかかるだろう。その経費は事前に評議員会に承認を求めて予備金を充当するのがいい。ただナショナルチームの編成、合宿、対外的な接衝など全員が責任を持って当たらなければならない。特定の人に押しつけて「私は知りませんよと」いうことのないように…。「日本チームの強化はオレがやるんだ」と各人がこの気持ちにならなければダメ。

〝会社の仕事があるから〟、〝学生リーグ戦があるから〟なんてケチくさいことは言わないこと。みんなの力で、みんなが強くすることを忘れないでほしい。

（鷲尾武治）

×　×　×

立大、5度目の優勝

関東学生春季リーグ

茨城大、健闘して2勝（一部）

関東学生春季リーグは5月3日（一部は4日から）から22日まで駒沢第2球技場で行なわれた。一部は茨城大の奮戦が目だち、法大、明大をともに1点差で破って堂々と2勝をあげた。第5日に優勝候補の芝浦工大が教大に敗れる番狂わせがあり、優勝は立大、教大、芝浦工大の間で争われた。この結果、立大は木野、藤城らの活躍で教大、芝浦工大を押え、38年春いらい2年ぶりに5度目の優勝を飾った。立大の優勝は25年春、26年春、同秋。38年春に次ぐもの。（本誌22号で立大の優勝は6度目とお知らせしたが、5度目の誤りでした）二部は慶大が優勝し、法大との一、二部入れ替え戦に勝って一部へ返り咲いた。また三部優勝の日大は自動的に二部に昇格した。

▽第1日（5月4日）

芝浦工大 34（21－4、13－1）5 茨城大
立大 19（8－12、11－4）16 明大
教大 27（13－7、14－10）17 中大
日体大 32（20－7、12－8）15 法大

▽第2日（5月5日）

立大 21（14－8、7－5）13 日体大
芝浦工大 30（12－7、18－3）10 中大
教大 23（12－7、11－8）15 明大
茨城大 15（10－4、5－10）14 法大

法大	得		茨城	得
渡辺	0	GK	成瀬	0
宮沢	0	GK	菅原	0
村田	3	FP	中沢	0
田中	0	FP	橋本	2
前田	1	FP	塚原	2
稲垣	2	FP	小菅	3
米沢	4	FP	清水	3
岩崎	2	FP	高栖	3
高橋	0	FP	坂下	2
正木	0	FP	島田	0
飯島	2	FP	鈴木	0
14	(0)	7MT	(0)	15

▽第3日（5月8日）

立大 25（12－8、13－3）11 中大
明大 20（9－10、11－4）14 法大
教大 25（14－8、11－6）14 茨城大
芝浦工大 22（10－8、12－2）10 日体大

日体	得		芝浦	得
佐藤	0	GK	渡辺	0
三穂野	0	GK	山村	0
渡辺	1	FP	近藤	8
神谷葭	3	FP	青山	2
木村	0	FP	安藤	0
中釜	3	FP	吉金	3
小林	0	FP	岩崎	1
大宮	2	FP	山田	4
早川	0	FP	千ヶ崎	0
神谷治	1	FP	関根	4
高橋	0	FP	竹内	0
10	(1)	7MT	(5)	22

▽第4日（5月9日）

明大 20（9－7、11－11）18 日体大
中大 23（16－5、7－8）13 茨城大
立大 18（8－7、10－2）9 教大
芝浦工大 25（11－10、14－3）13 法大

▽第5日（5月12日）

教大 14（3－9、11－3）12 芝浦工大

芝浦	得		教大	得
渡辺	0	GK	風間	0
山村	0	GK	畑	0
近藤	1	FP	松田	0
青山	2	FP	大西	3
安藤	0	FP	新堂	4
吉金	3	FP	北井	4
岩崎	1	FP	古沢	0
山田	2	FP	横田	2
千ヶ崎	0	FP	高田	1
関根	3	FP	松井	0
竹内	0	FP	小山	0
12	(0)	7MT	(0)	14

▽第6日（5月18日）

立大 17（10－2、7－6）8 法大
日体大 21（10－7、11－11）18 茨城大
中大 28（14－9、14－9）18 明大

芝浦工大－明大戦から

法大 24（17−7、5−15、1−1、1−0）23 中大
教大 21（7−6、14−10）16 日体大
芝浦工大 17（8−3、9−5）8 明大
立大 31（11−4、20−4）8 茨城大

▽最終日（5月22日）

茨城大 16（8−6、6−8、1−1、1−0）15 明大
中大 26（16−16、10−8）24 日体大
教大 18（11−10、7−7）17 法大
立大 21（10−5、11−8）13 芝浦工大

得	立大		芝浦	得
0	尾形	GK	渡辺	0
0	北田	GK	山村	0
2	伊東	FP	近藤	2
6	藤城	FP	青山	1
2	林	FP	近森	6
7	木野	FP	吉金	2
3	北村	FP	岩崎	0
1	東	FP	山田	2
0	谷川	FP	千ヶ崎	0
0	石川	FP	関根	0
0	野田	FP	竹内	0
21	(3)	7MT	(1)	13

教大北井のシュート（対日体大戦から）

遠隔の不利乗り越え

…茨城大の健闘を替える

春の関東学生リーグで茨城大が2勝をあげて5位になった。こう言っては失礼だが、戦前の予想では最下位候補だったのだから法大、明大を破っての進出は番狂わせともいえる。茨城大の気力に満ちた攻防は優勝した立大にまさるとも劣らないものがある。最近の学生リーグはテクニックは進歩したが、気力という点で物たらぬモノがある。そのなかで茨城大の健闘はそうした不評をはね飛ばす見事な試合ぶりである。

茨城大にとっても、一部で2勝をあげたのは部創立いらい初めてのことであり、〝忘れ得ぬシーズン〟となろう。茨城大の球歴は古い。前身は水戸高専で、終戦直後の高専大会にも出場している。関東学連には昭和22年秋から1年間加盟し、昭和26年春に茨城大として再加盟、今日に至っている。この間、昭和29年春から昭和30年春、昭和32年春と合わせて4シーズン一部に在籍しているが、勝ち試合は昭和29年秋東大を9−5で破っている1試合だけだ。この記録でもわかるとおり、茨城大はこれまでは圧倒的に二部での生活（?）が長かった。昨秋、二部で初優勝し、早大と入れ替え戦で対戦したとき、まさか早大を破って一部に返り咲くとは予想もしなかった。

試合での気力充実はもちろん特筆されて余りある。しかも試合ごとに水戸から上京する努力も実にりっぱだ。やっと駒沢に着いてみると、雨で試合が流れていたというつらい経験もいく度となく味わっている。それでもなお、このハンデを背負って試合を続けている姿は他校も大いに見習わなくてはならない。学生スポーツの真随に触れた思いがした。茨城大2勝の報を聞いて昨秋、早大を破ったとき、そして今春、法大、明大を破ったときの喜びは私にも想像できる。このようなチームを持つ関東学連は幸わせである。また日本ハンドボール界にとっては、誇りであるといっても過言ではない。

▽一、二部入れ替え戦（5月24日、駒沢）

慶大（二部）18（10−5、8−6）11 法大

二部は慶大優勝

早大 35（16−2、19−8）10 東京学芸大
慶大 23（12−4、11−5）9 防衛大
順天大 17（9−4、8−7）11 東大
防衛大 22（12−2、10−6）8 東京学芸大
慶大 28（11−4、17−6）10 順天大
早大 27（11−7、16−7）14 東大
早大 31（11−3、20−5）8 防衛大
慶大 23（10−5、13−7）12 東京学芸大
早大 27（8−3、19−7）10 順天大
東大 14（7−7、7−6）13 防衛大
順天大 21（9−4、12−5）9 東京学芸大
慶大 20（6−5、14−10）15 東大
東大 23（11−5、12−6）11 東京学芸大
慶大 15（7−6、6−7、2−0、0−1）14 早大
順天大 22（11−5、11−10）15 防衛大

三部は日大

日大 28−7 国士館大
武蔵工大 37−8 理科大
千葉工大 25−14 上智大
日大 22−6 上智大
国士館大 14−14 千葉工大（引き分け）
理科大 17−16 関東学院大
千葉工大 25−12 理科大
日大 29−8 関東学院大
武蔵工大 17−7 国士館大
武蔵工大 25−13 関東学院大
日大 18−12 千葉工大
上智大 18−8 国士館大
上智大 20−10 関東学院大

京大、加盟18年目の初優勝

関西学生春季リーグ戦は5月1日から京都市体育館、大阪府立体育館などで行なわれた。一部は予想に反し京大がしり上がりの好調をみせて7連勝、昭和23年加盟いらい18年目（35シーズン）に初優勝の快挙をなしとげた。二部は桃山学院大が優勝した。

関西学生春季戦績（一部）

	京	同	関	学	立	甲	経	阪	勝	負	分
①京大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0
②同志社大	●	×	○	○	○	○	○	○	6	1	0
③関大	●	●	×	○	○	○	○	○	5	2	0
④関学	●	●	●	×	○	○	○	○	4	3	0
⑤立命館大	●	●	●	●	×	○	○	○	3	4	0
⑥甲南大	●	●	●	●	●	×	○	○	2	5	0
⑦大阪経大	●	●	●	●	●	●	×	○	1	6	0
⑧大阪大	●	●	●	●	●	●	●	×	0	7	0

【2部】①桃山学院大7戦全勝②大府大③大阪工大④神戸大⑤京都学芸大⑥大阪歯科大⑦大阪市大⑧大阪学芸大

▽一部

同志社大 19（12−6、7−6）12 立命館大

関学 19（11−7、8−8）15 甲南大

京大 25（12−10、13−7）17 大阪経大

関大 30（18−7、12−10）17 大阪大

同志社大 38（23−6、15−6）12 大阪経大

関大 22（3−1、2−1…7−8、10−9）19 甲南大

関学 28（10−13、18−8）21 立命館大

京大 25（16−7、9−9）16 大阪大

関学 26（14−10、12−7）17 大阪経大

同志社大 28（13−15、15−8）23 大阪大

関大 29（15−11、14−6）17 立命館大

京大 30（19−12、11−7）19 甲南大

京大 20（11−9、9−9）18 立命館大

同志社大 20（10−9、10−5）14 甲南大

関学 25（13−7、12−15）22 大阪大

関大 37（18−9、19−6）15 大阪経大

京大 17（6−8、11−7）15 同志社大

関大 21（10−6、11−9）15 関学

甲南大 15（7−6、8−7）13 大阪大

立命館大 21（12−14、9−6）20 大阪経大

甲南大 19（0−0、2−0…6−12、11−5）17 大阪経大

京大 16（9−7、7−8）15 関学

同志社大 18（10−10、8−5）15 関大

立命館大 24（13−10、11−7）17 大阪大

大阪経大 19（7−9、12−3）12 大阪大

立命館大 16（6−8、10−2）10 甲南大

京大 14（6−6、8−6）12 関大

同志社大 18（10−9、8−7）16 関学

桃山大、一部に復帰

▽関西学生春季リーグ一、二部入れ替え戦（5月29日・大府大体育館）

桃山学院大（二部）23（11−6、12−8）14 大阪大（一部）

この結果、桃山学院大が5シーズンぶりに一部復帰。

関東学生春季戦績（一部）

	立大	教大	芝浦	中大	日体	明大	茨城	法大	試合	勝数	敗数
1.立大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	7	0
2.教大	●	×	○	○	○	○	○	○	7	6	1
3.芝浦工大	●	●	×	○	○	○	○	○	7	5	2
4.中大	●	●	●	×	○	○	○	●	7	3	4
5.日体大	●	●	●	●	×	●	○	○	7	2	5
5.明大	●	●	●	●	○	×	●	○	7	2	5
5.茨城大	●	●	●	●	●	○	×	○	7	2	5
8.法大	●	●	●	○	●	●	●	×	7	1	6

【2部】①慶大5勝②早大4勝1敗③順天堂大3勝3敗④東大2勝3敗⑤防衛大1勝4敗⑥東京学芸大5敗

武蔵工大 26−16 千葉工大

国士大館 22−15 理科大

武蔵工大 12−9 上智大

日大 35−10 理科大

国士館大 15−14 関東学院大

上智大 27−16 理科大

千葉工大 24−12 関東学院大

日大 21−9 武蔵工大

〔順位〕①日大6勝②武蔵工大5勝1敗③千葉工大3勝2敗1引き分け④上智大3勝3敗⑤国士館大2勝3敗1引き分け⑥理科大1勝5敗⑦関東学院大6敗

日大は自動的に二部へ昇格

女子は日体大

日体大 11（4−5、7−3）8 東女体大

東女体大 7（6−0、1−3）3 日女体短大

日体大 16（7−4、9−1）5 東女体大

東女体大 11（7−1、4−2）3 日女体短大

日体大 15（8−3、7−1）4 日女体短大

日体大 21（10−1、11−0）[illegible] 日女体短大

〔順位〕①日体大4勝②東女体大2勝2敗③日女体短大4敗

成功した若手監督の起用

〔評〕これ以上の波乱があろうか。戦前有力視されていたならともかく、前しょう戦の西日本学生（4月）でもパッとしなかっただけに、「Aの下」というのが京大への評であった。事実、リーグの前半戦は、阪大、立命館大などに食い下がられてよいところがなかった。それが試合ごとに調子をあげ、第5日に同大を破ってから勝運に乗り、関学に逆転勝ちし、余勢をかって関大をも圧倒した。京大はこれまで地味な存在であった。

最近10シーズン（5年間）の成績でもそれがよくわかる。35年春4位、秋6位。36年春7位、秋5位。37年春4位、秋2位。38年春3位、秋3位。39年春4位、秋4位である。37年秋は最終日まで同志社大と全勝で並び、惜敗したもの。

38年の春秋と合わせてこの3シーズンが京大の最もはなばなしい期間であった。とだれもが思ったものだが、なんとそれから3シーズン目に〝最高のシーズン〟を自らの力で築いたことはりっぱ。37 38年には浅野という抜群のポイントゲッターがいた。現監督の川原宏君は当時のGKである。この期に新人としてメンバーに加わっていた桑山、西口、渡辺らがことし最上級生になっている。川原監督を補佐していたことは勝因のひとつ。浅野ひとりだった前期に比べ、今季は辻野、安達、竹口、川口、市橋、山口と粒がそろっており、GK今安もソツなく守り、攻守のまとまりで他の七校を上回った。ひとりのポイントゲッターにたよらず、6人の平均した実力者をそろえたところに京大の進境が認められる。それが二位から優勝へと飛躍させた最大因といえよう。

京大で注目してよいのは監督に若い人材を登用したことだ。しかもほとんどの監督が一年で交代している。川原監督も昨年卒業と同時に就任し、前任の村中、川野、黒住、緒熊君なども同じようなケース。大学の監督はともすればOB間の年功序列や力関係が作用するが、「現役に近い監督」という京大の姿勢は今季の快挙になんらかのつながりを持っているようで興味深い。国公立大学が学生リーグで優勝した例はない。それを京大がやってのけた。国公立大学スポーツ界に大きな反響を呼んだことだろう。

（駒沢球治郎）

中京大、12回目の優勝

……東海学生春季リーグ

東海学生春季リーグ戦は5月1、2、9日の3日間名古屋市で行なわれた。中京大は今季も一方的な試合を続けて全勝、11シーズン連続、通算12回目の優勝を飾った。二部は南山大が昨秋に続き連勝。

「一部」

	得点	前半	後半	得点	
名工大	17	9―6	8―5	11	愛知学芸大
中京大	14	10―4	4―4	8	名大
岐阜大	14	10―6	4―4	10	名工大
名大	15	7―5	8―1	6	名工大
愛知学芸大	17	6―9	11―7	16	岐阜大
中京大	29	15―6	14―0	6	名工大
名大	21	12―5	9―4	9	愛知学芸大
中京大	26	12―8	14―5	13	岐阜大
中京大	25	12―5	13―4	9	愛知学芸大
名大	27	13―7	14―6	13	岐阜大

【順位】①中京大4戦全勝②名大3勝1敗③岐阜大1勝3敗（得点率0・412）④愛知学芸大1勝3敗（0・367）⑤名工大1勝3敗（0・361）

▽二部

三重大	17―11	滋賀大
南山大	14―12	三重大
滋賀大	27―5	県立三重大
南山大	26―2	県立三重大
三重大	21―9	県立三重大
南山大	棄権	滋賀大

【順位】①南山大3戦全勝（2回目）②三重大2勝1敗③滋賀大1勝2敗④県立三重大3戦3敗

※静岡大と愛知大は全試合棄権

▽一、二部入れ替え戦

南山大（二部）13（7―2、6―7）9 名工大（一部）

この結果、南山大が加盟いらい初の一部昇格。

岡山大、広商大を破る

…中四国学生春季リーグ

中・四国学生春季リーグは新たに山口大工学部が加わり、逆に昨秋参加した近畿大が今季は姿を見せず、5大学によって行なわれた。その結果、広島商大が5回目の優勝を飾った。

山口大	19―16	山口大工学部
岡山大	23―23	広島大（引き分け）
広島商大	24―10	山口大
広島大	27―15	山口大工学部
岡山大	23―16	広島商大

（昭38春、中四国学生リーグ開始いらい広島商大の敗戦は初めて）

広島商大	16―9	広島大
岡山大	30―14	山口大工学部
広島大	27―15	山口大
広島商大	33―10	山口大工学部
山口大	15―13	岡山大

【順位】①広島商大3勝1敗②岡山大、広島大2勝1敗1引き分け④山口大2勝2敗⑤山口大工学部4戦4敗。

連載第14回

ハンドボール球史

――大阪．岡山．愛知の対立――

第2次大戦前の日本ハンドボール界の主流は学生界であった。日本のアマ・スポーツ界のほとんどは、その創始期を大学チームで発展してきている。ハンドボール界も例外ではなかった。第2次大戦後、関東学生リーグの復活や関西諸校の活動開始は早かったのだが、国体の開催によって高校（中学）球界が大きく前面に押し出された。高校の府県対抗をメーンエベントにして充実する一方、一般球界と東西学連が復興への整備を急いだのである。

第4回国体あたりからハンドボールに限らず各競技界が復興し、国体の参加者は増加する一方。体協は参加人員の制限を行なって競技別にワクを設けた。ハンドボール界ではこのワクの活用をめぐって論議が繰り返された。高校界よりも一般球界の充実をこの機に行なうべきだという結論を得て、国体のハンドボールは高校中心から社会人（一般）中心へ移行した。競技面でも大阪、岡山の争いから、愛知が加わって3強となり、宮城、九州、北関東、北海道勢がこれに続いた。群雄割拠の様相を示し始めたのである。

国体の優勝といえば大阪か岡山に決まっていただけに、この傾向は喜ばしいことだった。過去5回の大会で大阪、岡山以外から優勝が出たのは一般男子の第3回（全九州）、第4回（東京ク）、高校男子の第5回（足利高）のわずか3回だけ。残りはすべて大阪または岡山代表によって占められていた。（注・学生部門を除く）第6回大会では北海道の進出が目だち、第7回大会の高校部門は男女とも愛知勢が制するところとなった。愛知が「ハンドボール王国」といわれるようになったのは、このときの快挙がはじまりであった。

【第6回国体・昭和26年10月26日～30日・広島県】

▼高校男子準決勝
桜台（愛知） 7－2 新居浜工（愛媛）
操山（岡山） 7－5 盛岡一（岩手）

▼同3位決定戦
盛岡一 3－2 新居浜工

▼同決勝
桜台 9（5－2、4－2）4 操山

桜台高は初優勝、愛知代表の優勝も初めて。

▼高校女子準決勝
青陵（岡山） 11－2 函館中部（北海道）
涌谷（宮城） 6－3 寝屋川（大阪）

▼3位決勝戦
寝屋川 8－0 函館中部

▼同決勝
青陵 5（3－3、2－1）4 涌谷

青陵高は初優勝、岡山代表の優勝は2年ぶり2回目。

▼一般男子準決勝
大阪ク（大阪） 6－1 山口ク（山口）
函館ク（北海道） 8－6 愛球ク（愛知）

▼同三位決定戦
山口ク 8－7 愛球ク

▼同決勝
大阪ク 4（3－2、1－1）3 函館ク

大阪クは4年ぶり2回目。大阪代表の優勝は第1、第2回大会の関西代表時代を含め4年ぶり3回目。

▼一般女子準決勝
岡山ク（岡山） 4－1 函館ク（北海道）
大阪ク（大阪） 6－0 仙台ク（宮城）

▼同3位決定戦
仙台ク 4－2 函館ク

▼同決勝
岡山ク 7（1－1、6－1）2 大阪ク

岡山クは初優勝、岡山代表は2年連続2回目。

▼天皇杯順位 ①岡山 ②大阪 ③北海道 ④宮城 ⑤愛知 ⑥福岡 ⑦山口、岩手

【第7回国体・昭和27年10月19日～23日・福島県福島市】

▼高校男子1回戦
山口（山口） 6－4 明石（兵庫）
那賀（和歌山） 8－4 松山北（愛媛）
盛岡一（岩手） 10－9 富山東（富山）
上田松尾（長野） 11－8 土佐（高知）

▼同2回戦
山口 7－5 清水商（静岡）
豊中（大阪） 12－5 安積（福島）
済々黌（熊本） 6－5 慶応（東京）
津山北園（岡山） 6－3 那賀
桜台（愛知） 13－10 盛岡一
鎌倉学園（神奈川） 9－3 函館商（北海道）
福陵（福岡） 6－5 加納（岐阜）
桐生工（群馬） 19－5 上田松尾

▼同準々決勝
山口 5－5 豊中
抽選により山口高の勝ち
済々黌 9－7 津山北園
桜台 19－5 鎌倉学園
桐生工 16－1 福陵

▼同準決勝
済々黌 9－4 山口
桜台 14－11 桐生工

▼同3位決定戦
山口 9－1 桐生工

▼同決勝
桜台 7（4－4、3－2）6 済々黌

桜台高は2連勝2回目、愛知代表の優勝も2連勝2回目。

▼高校女子1回戦

明善（福岡） 6－3 郡山女（福島）

玉名（熊本） 10－1 今治西（愛媛）

▼同2回戦

倉敷青陵（岡山） 11－2 明善

静岡城北（静岡） 11－7 函館中部（北海道）

稲沢（愛知） 9－3 呉三津田（広島）

涌谷（宮城） 8－6 明石（兵庫）

足利女（栃木） 13－4 津実業（三重）

彦根東（滋賀） 7－3 山梨（山梨）

八尾（富山） 8－5 井草（東京）

寝屋川（大阪） 10－1 玉名

▼同準々決勝

静岡城北 14－8 倉敷青陵

稲沢 7－5 涌谷

足利女 7－5 彦根東

寝屋川 10－2 八尾

▼同準決勝

稲沢 16－12 静岡城北

足利女 7－5 寝屋川

▼同3位決定戦

寝屋川 3－1 静岡城北

▼同決勝

稲沢 11（5－2、6－1）3 足利女

稲沢高は初優勝、愛知代表の優勝も初めて。

▼一般男子1回戦

愛知ク（愛知） 17－2 山梨選抜（山梨）

全愛媛（愛媛） 12－9 安積ク（福島）

北嶺ク（富山） 10－7 全滋賀（滋賀）

福岡ク（福岡） 12－7 全広島（広島）

サンダース（北海道） 9－8 全群馬（群馬）

熊本ク（熊本） 14－6 浅陽ク（長野）

明石ク（兵庫） 8－6 全茨城（茨城）

全神奈川（神奈川） 15－3 四日市ク（三重）

橘ク（静岡） 16－6 奈良ク（奈良）

新潟ク（新潟） 9－4 香川同好会（香川）

山口ク（山口） 14－8 東京ク（東京）

大阪ク（大阪） 14－6 白亜ク（岩手）

栃木ク（栃木） 9－4 北星ク（石川）

津山美成OB（岡山） 不戦勝 千葉ク（千葉）

仙台ク（宮城） 8－7 加治木ク（鹿児島）

高知ク（高知） 9－7 京都ク（京都）

▼同2回戦

愛知ク 17－5 愛媛ク

福岡ク 14－3 北嶺ク

サンダース 11－7 熊本ク

全神奈川 14－6 明石ク

橘ク 16－4 新潟ク

大阪ク 9－3 山口ク

栃木ク 11－10 津山成美OB

仙台ク 9－6 高知ク

▼同準々決勝

福岡ク 12－9 愛知ク

全神奈川 10－7 サンダース

大阪ク 16－8 橘ク

栃木ク 9－8 仙台ク

▼同準決勝

全神奈川 14－6 福岡ク

大阪ク 16－4 栃木ク

▼同3位決定戦

福岡ク 17－7 栃木ク

▼同決勝

大阪ク 11（9－0、2－3）3 全神奈川

大阪クは2年連続3回目の優勝大阪代表の優勝は2年連続4回目

▼一般女子1回戦

北星ク（北海道） 7－4 大阪ク（大阪）

愛知ク（愛知） 7－2 小松ク（石川）

東京ク（東京） 6－4 福岡ク（福岡）

倉敷青陵OG（岡山） 13－9 涌谷ク（宮城）

▼同準決勝

北星ク 6－4 愛知ク

倉敷青陵OG 8－4 東京ク

▼同3位決定戦

東京ク 10－8 愛知ク

▼同決勝

倉敷青陵OG 7（3－4、4－2）6 北星ク

倉敷青陵OGは2年ぶり2回目岡山代表の優勝は3年連続3回目

▼天皇杯順位 ①愛知②大阪③岡山④栃木⑤福岡⑥神奈川、北海道⑧静岡、宮城

▼皇后杯順位 ①愛知②岡山③大阪④栃木、北海道⑥東京⑦静岡、宮城

なお第7回大会の参加人員は初めて一千を越えた。第2回以後の大会別参加人員を参考までにまとめておこう。

▼第2回583▼第3回837▼第4回498▼第5回638▼第6回535▼第7回1、108

◇　◇　◇

千代田ら4チーム推薦

全日本実業団連盟は第十七回全日本総合ハンドボール選手権大会の実業団代表四チームを次のように決めた。

1、宗形製作所（大　阪）

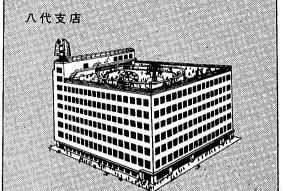
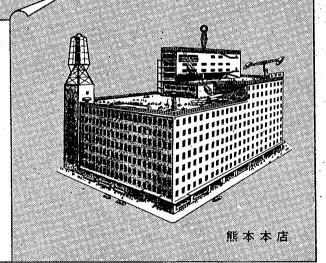
2、千代田印刷機製造（東　京）

3、日本鋼管（神奈川）

4、岡野バルブ（福　岡）

×　×　×

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

東京都協会告知版

常任理事会議事録

とき　5月10日午後6時
ところ　大崎電気工業株式会社会議室
出席者　渡辺、山岡憲（代理近藤）、外山、中沢、安藤
委任鈴木、古賀、岡村
欠席者　吉田、山岡二、佐野、宮田、松田

1、40年度の新役員を次のとおり選出した。（◎印は新）

会　長　渡辺和美（大崎電気工業社長）
副会長　鈴木達雄（レナウン工業社長）山岡憲一（東京重機工業社長）古賀和佐雄（千代田印刷機製造社長）◎数原洋二（三菱鉛筆社長）
理事長　外山准二（日本通信建設、慶大ＯＢ）
常任理事　安藤純光（法政大学体育研究室）中沢重夫（芝浦工大土木工学科教室）宮田豊太郎（都立北園高校長）松田利秋（品川区立荏原一中）◎荒川清美日体大助教授）◎永井勝雄（都立両国高校）◎岡前義春（都立五商高校）◎近藤金博（東京重機工業）
理　事　黒川正雄（レナウン工業人事部長）古賀健一郎（千代田印刷機専務）◎猪狩武春（三菱鉛筆総務部次長）佐野和夫（都立秋川高校）中野偉夫（武蔵工大付属中学）平地英正（武蔵野市立第三中学）大迫末司（杉並区立高円寺中学）◎島田正士（都立北多摩高校）◎今野邦彦（大崎電気工業）国原英子（中野区立中央中学）鶴岡光子（北区立豊島中学）◎岡村千春（都立小平高校）◎和田ちと世（東京女子体大出身）

常任理事会議事報告

◎全日本総合選手権
東京都予選の件

6月15日の常任理事会で第17回全日本総合選手権大会の東京都予選（男子のみ）の要項が次のように決まりました。参加希望チームは至急申し込んでください。女子はフリー参加なので予選はありません。

1　と　き
6月26日（土）～27日（日）

2　と　こ　ろ
駒沢第1球技場（第2ではありません）。

3　しめ切り
6月24日午後5時までに東京都ハンドボール協会に申し込んでください。電話でもいい。

4　監督会議
6月24日午後6時から大崎電気会議室で開き、組み合わせを決めます。

5　参　加　費　な　し

6　そ　の　他
この予選には大崎電気、芝浦工大、日体大ク、全立大、明大、中大、教大、慶大、千代田印刷機は日本協会、学連、実業団連盟の推薦チームなので出場しません。

◎全日本総合選手権大会
関東予選の件

第17回全日本総合選手権大会関東予選（男子のみ）は関東ハンドボール連盟代表者会議（3月8日岸記念体育館）で（7月4日ごろ東京都で開いてほしい）との要望がありました。東京都ハンドボール協会は6月15日の常任理事会で開催を決定しましたのでお知らせします。

1　と　き
7月4日午前9時30分

2　と　こ　ろ
新宿区戸塚一中グラウンド

3　しめ切り
6月27日午後5時までに東京都ハンドボール協会に報告してください。（予選未終了の県はそのむね報告してください）。

4　組み合わせ
予選当日の午前9時30分に戸塚一中グラウンドで行ないます。試合は10時から始めます。

5　そ　の　他
A　本大会には関東ブロックから2チーム出場できます。
B　この予選には大崎電気、芝浦工大、日体大ク、全立大、千代田印刷機、明大、教大、中大、茨城大、慶大、日本鋼管の11チームは出場しません。

◎第20回国体東京都予選の件

第20回国体東京都予選は8月14～17日まで、駒沢第2球技場で開きます。参加要項は次のように決まりましたのでお知らせします。

1　と　き
8月14日から17日まで

2　と　こ　ろ
駒沢第2球技場

3　しめ切り
8月7日午後5時までに東京都ハンドボール協会に申し込んでください。

4　組み合わせ
8月9日午後5時から大崎電気会議室で行ないます。

5　関東予選
9月2日から4日まで千葉市で開かれる。この予選には各種目とも1チームが出場できる。なお本大会の関東ブロック代表は一般男子6、一般女子2、教員男子、高校男子、高校女子とも各1チームである。

6　そ　の　他
A　教員男子については登録チームが1チームなので予選を行なわず自動的に東京都代表となる。
B　また関東予選の日程は3月8日の関東ハンドボール連盟代表者会議で決定している。
C　大崎電気は男女とも埼玉県から、東京重機（女）は神奈川県から、三菱鉛筆（女）は山形県から出場します。
D　申し込み後に棄権した場合は懲罰委員会にかけ処分を決めます。（了）

地方だより

スワロー兵庫優勝

◆兵庫県春季一般選手権（4月18月、25日、明石高、兵庫工高）

▽1回戦

川崎車輌 19－12 尼崎ク

スワロー兵庫 35－13 兵庫ク

富士レジンKK 24－13 明石高OB

▽準決勝

スワロー兵庫 34－24 川崎車輌

富士レジンKK 19－16 兵工ク

▽決勝

スワロー兵庫 21（9－4 12－8）12 富士レジンKK

兵庫工、明石を破る

◆近畿高校選手権兵庫予選（4月24－25日、兵庫工高）

「男子」

▽1回戦

兵庫工 11－7 甲陽

西宮東 24－19 明石商

御影工 12－9 武庫工

兵庫 17－2 竜野

柏原 21－12 滝川

尼崎工 14－11 三田

報徳学園 19－8 市神工

明石 23－8 鈴蘭台

▽準々決勝

兵庫工 14－7 西宮東

御影工 11－6 兵庫

尼崎工 20－12 柏原

明石 24－5 報徳学園

▽準決勝

兵庫工 12－8 御影工

明石 26－5 尼崎工

▽決勝

兵庫工 10（4－3 6－4）7 明石

「女子」

▽1回戦

夙川学院 10－8 鈴蘭台

甲子園学院 不戦 佐用

▽準決勝

兵庫工 8－7 明石

甲子園学院 12－6 夙川学院

尼崎 7－2 兵庫工

▽決勝

甲子園学院 11（5－2 6－3）5 尼崎

邑久高が優勝

◆第20回岡山県高校優勝大会（4月17日－18日、津山商高）

「男子」

▽1回戦

津山 21－10 操山

青陵 11－10 勝間田農

天城 13－6 津山商

岡山工 12－9 倉敷工

邑久 12－6 玉野

矢掛 不戦勝 林野

津山工 16－11 関西

倉敷商 16－6 児島

▽準々決勝

津山 13－8 青陵

岡山工 9－7 天城

邑久 6－8 矢掛

倉敷商 17－12 津山工

▽準決勝

岡山工 16－9 津山

邑久 10－8 倉敷商

▽決勝

邑久 8（6－4 2－2）6 岡山工

「女子」

▽1回戦

真備 不戦勝 日本原

▽準々決勝

井原 34－5 真備

津山商 不戦勝 金川

西大寺 5－3 青陵

落合 不戦勝 津山

▽準決勝

井原 7－2 津山商

西大寺 7－2 落合

▽決勝

井原 9（7－1 2－1）2 西大寺

◆第15回全日本総合選手権岡山県予選（4月18日、津山商高）

「一般男子」

▽1回戦

岡山大 20－9 津山ク

天城OB 28－5 関西ク

▽決勝

岡山大 18（9－5 9－5）10 天城OB

岡野バルブ優勝

◆九州選手権一般男子福岡県予選（4月25日、香椎高）

▽1回戦

幹候校 16－8 西南学院大

▽準決勝

教員ク 19－18 幹候校

岡野バルブ 45－15 九大

▽決勝

岡野バルブ 32－19 教員ク

山陽女高優勝 一般男子は広島大

◆第16回高校、第10回一般中国選手権（5月2、3日松江市）

「高校男子」

▽1回戦

宇部工 10－6 広

松江工 17－14 邑久

倉敷商 18－7 境

徳山 28－10 呉商

下松工 15－9 尾道

修道 38－3 出雲農

下関中央工 16－10 岡山工

岩国工 27－10 津山

▽準々決勝

宇部工 10－5 松江工

徳山 20－9 倉敷商

岩国工 17－11 下松工

下関中央工 11－6 修道

▽準決勝

宇部工 15－7 徳山

下関中央工 14－2 岩国工

▽決勝

下関中央工 9－4 宇部工

「高校女子」

▽1回戦

津山商 5－4 呉農業

徳山 23－9 青陵

山陽女子 11－4 井原

西大寺 10－7 中央

▽準々決勝

島根大付 6－5 津山商

徳山 16－8 進徳女

山陽女子 25－3 松江市女

呉三津田 6－5 西大寺

▽準決勝

徳山 16－4 島根大付

山陽女子 18－2 呉三津田

▽決勝

山陽女子 15－8 徳山

「一般男子」

▽1回戦

広島大 20－19 山口教員

天城高OB 20－14 全広島商大

広島商大 31－11 島根日体ク

三菱レイヨン大竹 18－10 三井石油化

▽準決勝

広島大 15－14 天城高OB

三菱レイヨン大竹 16－13 広島商大

▽決勝

広島大 15－14 三菱レイヨン大竹

岡野パルプ準優勝

◆第1回九州選手権兼全日本総合選手権九州予選（5月9日、福岡県香椎高校）

「一般男子」

▽1回戦
鹿児島ク 19―17 福岡教員
大分教員 28―16 佐世保ク

▽準決勝
熊本教員 30―17 鹿児島ク
岡野パルプ 23―11 大分教員

▽決勝
熊本教員 21（12―7、9―8）15 岡野パルプ

「女子決勝」

大洋デパート 17（10―0、7―3）3 府内ライオンズクラブ（大分）

明石、7年ぶりの優勝

◆第8回近畿高校選手権 5月15、16日、和歌山市で開かれた。男子は明石高が7年ぶり2回目、女子は豊中高が2連勝した。

▽男子準々決勝
兵庫工（兵庫）13―9 寝屋川（大阪）
和歌山商（和歌山）8―7 北野（大阪）
明石（兵庫）11―10 洛東（京都）
三国丘（大阪）14―8 大谷（京都）

▽同準決勝
兵庫工 14（6―6、8―7）13 和歌山商
明石 18（13―6、5―4）10 三国丘

▽同決勝
明石 9（3―3、3―3、……、2―1、1―1）8 兵庫工

▽女子準々決勝
豊中（大阪）9―5 和歌山商（和歌山）
甲子園学院（兵庫）8―3 枚方（大阪）
寝屋川（大阪）19―2 彦根西（滋賀）
梅花学園（大阪）8―6 大谷（京都）

▽同準決勝
豊中 4（2―0、2―1）1 甲子園学院
梅花学園 6（2―2、4―3）5 寝屋川

▽同決勝
豊中 2（1―0、1―1）1 梅花学園

清商ク、橘クを破る

◆第19回静岡県スポーツ祭（5月23日、清水市）

▽一般男子決勝
清商ク 17（7―4、10―10）14 清水橘ク

▽一般女子決勝
静岡北ク 21（12―1、9―2）3 清女商ク

接戦の愛知高校女子

◆愛知県高校総合体育大会（5月9、16日・名古屋市）

▽男子準決勝
桜台 32―11 時修館
名城大付 14―12 中京商

▽同決勝
桜台 18（10―7、8―5）12 名城大付

▽同3位決定戦
時修館 18―16 中京商

▽女子準決勝
半田 11―10 稲沢
名女商 8―7 一宮

▽同3位決定戦
稲沢 6―2 一宮

▽同決勝
半田 8（4―4、4―3）7 名女商

麻生高優勝

◆関東高校茨城県予選（6月、土浦市）

▽男子1回戦
麻生 26―3 勝田工
土浦一 26―6 下館一
水海道一 27―4 磯原
水戸工 16―11 水戸一
竜ヶ崎 15―4 八郷
土浦工 17―7 潮来
石岡一 28―9 常北
笠間 13―12 麻生北浦

▽準々決勝
麻生 29―6 土浦一
水海道一 24―15 水戸工
土浦工 10―9 竜ヶ崎
石岡一 19―9 笠間

▽準決勝
麻生 27―9 水海道一
石岡一 20―11 土浦工

▽3位決定戦
土浦工 23―13 水海道一

▽決勝
麻生 19（7―9、12―6）15 石岡一

▽女子1回戦
土浦一 16―4 磯原
水戸二 25―3 常北

▽準々決勝
水海道二 35―1 土浦一
麻生 7―6 大田二
八郷 11―9 石岡二
笠間 13―11 水戸二

▽準決勝
水海道二 12―6 麻生
笠間 10―7 八郷

▽3位決定戦
麻生 10―7 八郷

▽決勝
水海道二 18（11―1、7―2）3 笠間

編集後記

○…先日大洋デパートの山内人事課長さんから手紙が届いた。内容は「4月下旬に大分県から一般女子チームが来社し、3日ほど大洋デパートの寮に泊めてほしい。そして一緒に練習してもらいたいと言ってきた。うちのチームと仲よく練習したようです。経費が少ないからたいへんです。このチームは大分市府内のライオンズクラブの人たちです。ことし卒業した高校生のクラブです。コーチは大分県鶴崎工高の湯浅秀紀教諭です。私は監督に早く日本協会に登録するよう伝えておきました。協会発展のために願ってもない快報ではありませんか」というもの。山内さんは熊本県ばかりでなく、大分県のチームまでお世話している。ごりっぱな方です。本欄を借りて厚くお礼申しあげます。

○…今秋の女子世界選手権大会は日本の単独出現は認められず、2回戦で前回3位のチェコと対戦する。2試合やって準々決勝（8チーム）進出を決める。本誌が出るころには候補選手が決まり、第1次合宿にはいっていることと思う。中国遠征のようなことがないように、チームワークに心がけてほしい。

○…ハンドボールのオリンピック種目採用について、IOCのブランデージ会長は「ハンドボールを採用すべきである」と注目すべき発言をしている。IHFは1972年のオリンピックを目標にしているが、1968年のメキシコ・オリンピックの種目が10月のIOC総会で正式に決まる。ひょっとするとハンドボールが採用されるかもしれない。吉報を待とう。

○…男子中国遠征についてご感想がありましたら、本誌編集部まで。（ふぐ）

ユニとはただ一つの意味